

生き方を教えてくれた人

金屋中・3 中島 貫汰

「じゃあ、かんたくん、頑張つてね。」

今までに何回言われただろう。時には背中をぼんぼんとたたいてくれるときもある。笑顔いっぱい。この数秒の出来事で僕の気持ちがあぐんと上がる。

僕の中学陸上競技生活を支えてくださっている接骨院の先生の話である。

中学二年生の春、友達からの紹介で通い始めた接骨院で出会ったのがきっかけだ。初めて施術をしていた印象は、優しい笑顔と声の先生だなと思った。その三十分の施術後、重く感じていた足が驚くほど軽くなっていた。足を上げてみると、痛みもほとんど感じなくなっていた。僕は魔法にかけられたのかと思った。この先生はゴッドハンドの持ち主だ。心からそう感じた。そして、これから僕の陸上競技生活をずっと支えてほしいと願った。

それから週に何度もお世話になるようになった。接骨院に行くと毎回先生の幼少期の話や学生時代の話、社会人になってからの話をたくさん聞かせてくださる。それは僕がまだ経験したことのないような苦労話もあった。先生は学生時代に陸上競技部で棒高跳びをされていた選手である。忙しい今でも年に数回は棒高跳びの選手として出場されている。高校時代にはなんとインターハイにも出場されたこともお聞きし、僕のあこがれの存在となっていた。しかし、先生の陸上生活は、楽しいことやうれいことばかりではなかった。そうである。インターハイ予選の直前に怪我をしてしまいインターハイ出場が厳しい状況にあったのにも関わらず、インターハイを決め周りの人たちにも驚かされたと話してくださった。僕はその話を聞

いて、周りにも期待されていたな。怪我をしてしまい、相当落ち込んでしまったのではないかと思ったが、話の続きを聞いていくと僕の予想とは全く違うことを考えていた。周りの大人や友達にも

「その足じゃもう無理だから辞める。」
「悔しいと思うけど仕方ないよ。」

などと言われたそう。しかし先生は、そんなマイナスな言葉は一切聞き入れることなく、「絶対にインターハイに行つてやる」という、とても強い気持ちで挑んだそう。周りの人に励まされるどころか、ひどい怪我をしているからもう諦めろと言われ、僕ならモチベーションが下がって、その時点で諦めてしまいそうな精神状態になってしまうと思う。そんな先生から、どんな辛い状況でも決して諦めてはいけないという心を学んだ。

僕は去年の秋頃から、本格的に走り幅跳びの指導を受けるようになった。新しく入ったクラブチームの先生が熱心に指導をしてくださり、今まで以上に練習への意欲や試合への向き合い方も変わっていった。週に三日から四日は練習に必ず参加していた。練習量も増え強度の高い練習もこなせていたが、気持ちはついてこられていた。体も、だんだんと思えば体になっていた。負担の多い幅跳びの練習が連続であり、毎回毎回全力で取り組んでいたため、腰を徐々に痛めてしまっていた。ある日、腰に違和感があるなか、自主練習に来てしまった。満足がいかず何本も跳んでいたら、数本目に腰に電流が流れたかのような激痛が走った。今までに経験したことのない痛みで何が起きたのか全く分からなかった。歩くだけで痛くなってしまった。このような状態で練習を続けていけるのか、と大量の恐怖心が頭の中に浮かんできた。その時は不安以外何も感じる事ができなかった。その日の夜、一旦接骨院に行くことにした。腰を押さえながらゆつくりドアを開けると

「かんたくん どうしたの。」

と、先生が心配そうに声をかけてくれた。事情を説明し、どのよう

な痛みか、どこが痛いのかを詳しく伝えると

「かんたくん大丈夫だよ。電気鍼が効くと思うからやってみよう。絶対治るよ。」

と言ってくれました。その言葉を聞いて、とても心強いなと感じた。全て先生にお任せしようと思った。いつも付き添ってくれる母も

「先生なら絶対治してくれるよ。」

と言っていた。親子で信じることにした。鍼を打つ場所を決めてもらい、鍼に流す電圧を徐々に上げていく治療を一週間毎日やり続けた。日に日に腰の痛みが抜け、楽になっていくのを実感した。その一週間には軽く走れるようになるまで回復した。正直あれほど痛かったのが嘘のように感じた。先生に

「今日走ってみたのですが、痛みなく走れました。」と報告すると、

「よかった。じゃあ、今日も鍼やっていこうね。」

と笑顔で言ってくれました。

その二週間後には、もう幅跳びを痛みなくできるようになった。もう感謝の言葉しか出てこなかった。

「治してくださりありがとうございます」と。

僕はこの先生には自分の悩んでいることも温かい笑顔で話を聞いてくれるからだ。そして、色々なことを経験されてきた先生の一言一言は、僕の心にストレートに響いてくる。

「先生いつもありがとうございます。」

毎日そう思っている。

僕の将来の夢は、理学療法士である。先生が人を助ける大切さ、喜びを教えてくださいましたから。

「先生、今日もありがとうございます。」